

吉野石膏株式会社



代表取締役社長
須藤 永作 氏

明けましておめでとうございます。昨年、弊社は120周年を迎えることが出来ました。ここまで支えていただいたお客様には心より厚く御礼申し上げます。さて、2021年は引き続き新型コロナウイルスに影響を受け、行動を制約された一年でした。更に、私たちも含め、ほとんどのメーカーが原料調達やコストに苦しみながら市場への安定供給のためにまい進した一年でもあったと思います。市場では、住宅分野におけるローン減税などの制度適用から、後半にかけて出荷量が増えてきました。今後は、コロナ禍の中で見え始めた働き方の変化が建物にも影響を与え、特に住空間はますます変化していくと考えております。

吉野石膏グループもお客様との接点を取りにくい一年間ではあったものの、あらゆる手段を駆使してお客様のニーズを汲み取る営業に注力してまいりました。一昨年、コロナ禍において発売にこぎつけた外壁下地用耐力面材「EX ハイパー」を始め、空気環境や音環境に対応した製品、工法もお客様の声にお応えしてきた商品です。

これからも私たちはお客様との対話を通して、製品や工法の開発を進め、お客様とともに成果を出せるよう、未来共創の視点で取り組んでいきたいと考えています。

石膏の性能向上でニーズに対応

弊社は「安全で快適な住空間を創る」ことを目指し、「人の生命や財産を守る」ことが出来る石膏の特性を生かした商品、工法の開発を行っています。そういう中で注力する商品として「EX ハイパー」があります。昨年はお客様との接点を取りづらいうちで、商品の特性、良さを何とかお伝えしてきました。耐力面材にすることによって、住宅の安全性、快適性が増すことを広く啓蒙しながら、お客様の声を聴く営業を展開してまいります。また、木造建築物は医療、老健、官庁物件を中心とした非住宅分野から都市型中低層住宅分野へも広がってきており、石膏の持つ耐火性能に高防水、高防カビという性能を加えた「タイガーボード・タイプ Z-WR」、更に空気環境に配慮した「タイガーハイクリンボード」でお客様に貢献できると考えています。他にも磁石の付く「タイガーFeボード」など、お客様のニーズを取り込んだ商品開発を進めてまいります。海外事業ではインドネシアや、昨年に新工場が稼働したベトナムにおいて、新型コロナウイルスへの対応に苦慮しましたが、両国の経済回復に期待して増産体制を築いていきます。

これからも吉野石膏を始め、日本ソーラトン、旭ファイバーグラス、エヌビーエル等、吉野石膏グループ全体でお客様のお役に立てるよう一丸となって邁進してまいりますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

外壁下地用耐力面材 木造軸組

タイガーEXハイパー

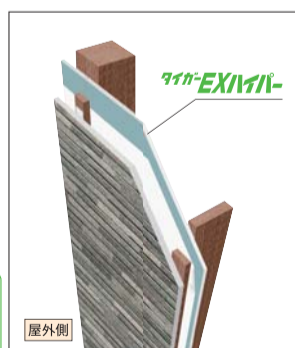
新製品

もっと地震に強く、火に強く

従来品より 軽量化 + 高い壁倍率
硬質せっこう板に、高防水、高防カビ性能を付加し、外壁下地用耐力面材としての使用を可能にしました。



耐力壁 木造軸組
壁倍率(標準仕様) **2.7**
認定番号 FRM-0678



外壁の構造の例

こんな方に採用頂いています。

- ✓ 透湿抵抗の低い建材がほしい
合板の12倍湿気を通します。
透湿抵抗値 0.65 [×10⁻³ (m²・s・Pa)/ng]
- ✓ 大工さんの高所作業を減らしたい
内装側の妻壁の施工を省略できる内装フリーの防火構造認定があります。
- ✓ 貫い火による火災を避けたい
不燃認定材料だから火に強い面材です。
- ✓ 耐力面材のコストダウンをしたい
今お使いの耐力面材と比べてください。



YOSHINO
安全で快適な住空間を創る 吉野石膏



株式会社LIXIL



執行役専務
LIXIL WATER TECHNOLOGY JAPAN 担当
大西 博之 氏

明けましておめでとうございます。旧年中は格別なご高配にあずかり、誠にありがとうございました。皆様のご繁栄を心からお祈り申し上げますとともに本年も倍旧のお引き立てのほどお願い申し上げます。

世界経済が急速に回復しつつある一方、今なお頻発するロックダウン、コンテナの不足、電力制限等の影響により、幅広い産業にて資材の調達がひっ迫し、欠品や長納期化が発生しています。また、環境問題への対応は経営の根幹に関わる課題となり、各企業はカーボンニュートラルを見据え、取り組みを進めています。需要は世界的に旺盛な状況が続くと期待が膨らむ一方、これまでのような生産方式を継続することは難しく、大きな投資も必要となります。既にインフレに突入しており、この先、環境対応への継続投資が不可欠なことから、この基調が変わることは当面ないと想像します。私たちが関わる住宅産業は生活のインフラであり、私たちが果たす役割は、豊かで快適な住生活を提供すること、そして安定供給です。世界の潮目を変化した今、安定供給を維持するために、私たちの考えや取り組みも変えていかねばなりません。

「サプライチェーンの強化」と「価格の適性化」

今の調達困難は原材料や部品だけでなく配送場面でも起きています。よってサプライチェーンを End to End (端から端) で俯瞰し、リスクを分散・回避するプランをつくらなければなりません。サプライチェーンの起点は調達ですが、本質的には原材料の種類や部品の数も非常に重要であり、その数を適正に絞り込むところから始めます。終点はメーカーの配送ではなく、その先の代理店様による再配までと捉えます。また、調達する原材料や部品の選定、工場での製造、配送といった全てのプロセスでは、CO₂排出量の削減を前提条件として付けなければなりません。これらの考え方を元に改革プランを策定し実践します。特に環境、更にサステナビリティへの投資は大きな額になると想定しています。これまで、新しい価値を創造し価格転嫁してきましたが、今後は安定供給のための価格転嫁も合わせて必要になると考えます。世界的な大きな変化の時代に突入した今、皆様方と議論を重ねながら挑戦してまいりたく、ご指導、ご協力賜りますようお願いいたします。



株式会社 LIXIL

お客さま相談センター ☎ 0120-179-400
受付時間：平日 9:00～18:00 土・日・祝 9:00～17:00